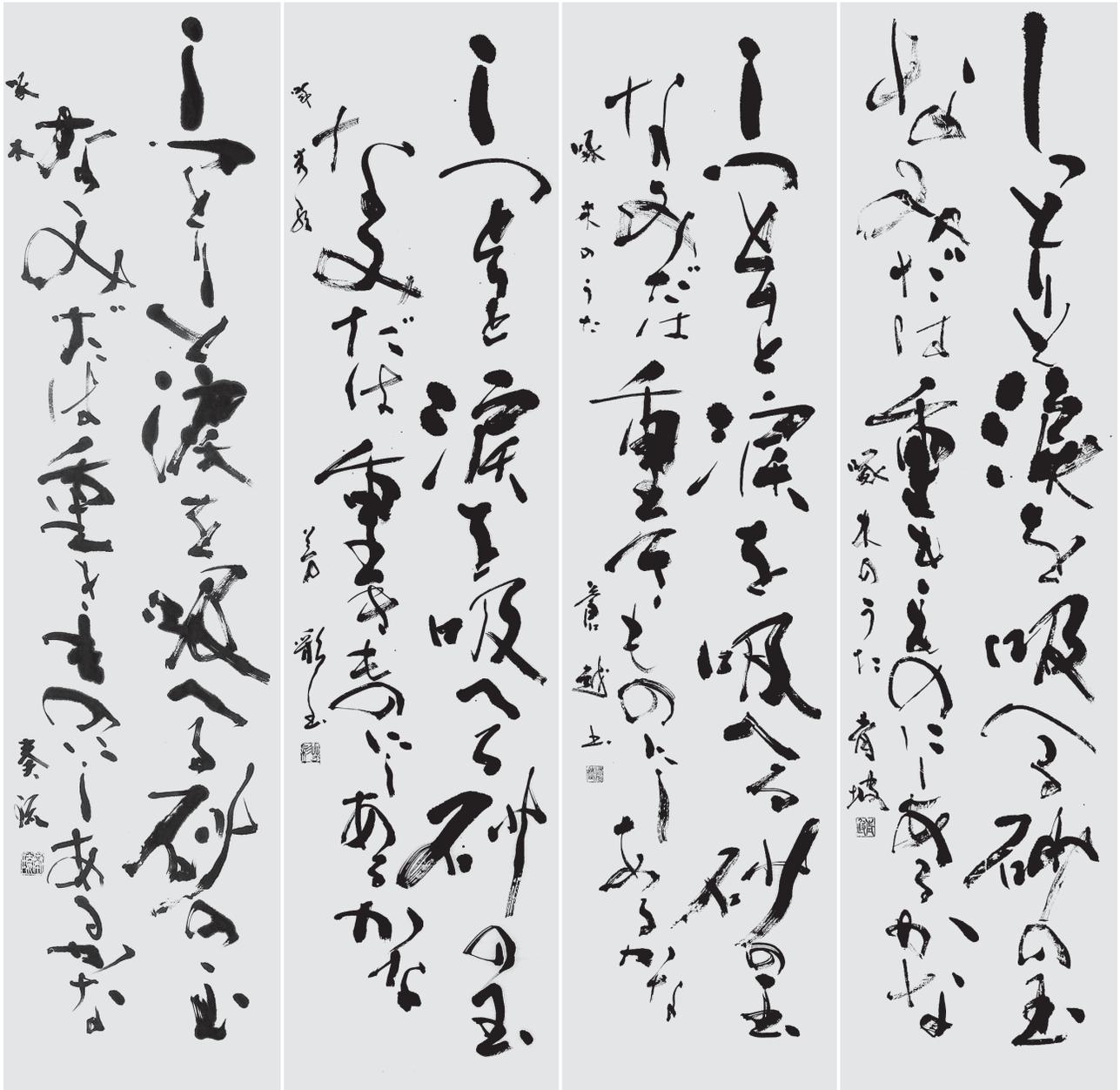


江幡太瓏先生選評



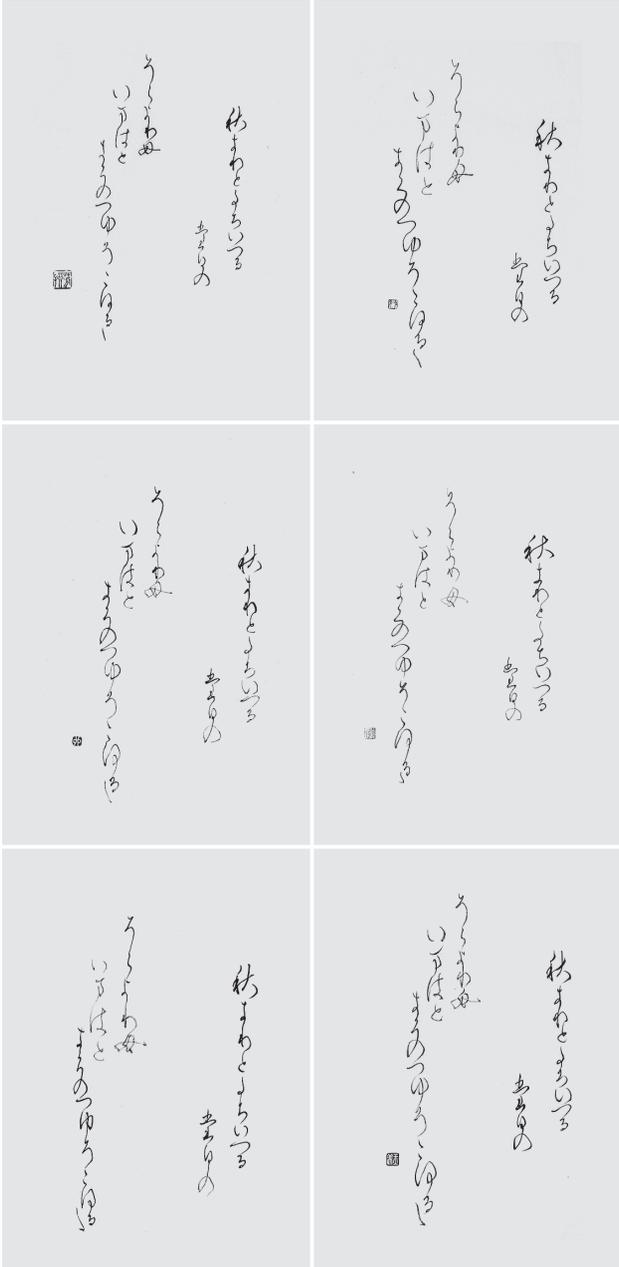
山根 青坡 推選
 多少速書きに見えますが、潤濁、リズム、太細、軽重どれを見ても素晴らしい。特に「なみだは」の線質、表情豊かな渴筆は白眉であります。

森山 蒼越 推選
 二行目の多い仮名表現方法に心打たれました。大小、太細、筆脈、抑揚これ又お見事です。小さいけれど弱くない。やはり線の強さです。

金子 芳彩 推選
 墨量充分で動き大きく明るい作品です。貴方も弱くなりがちな二行目仮名部分がリズム良く太細、大小、墨量の変化など申し分ありません。

赤平 奏琉 推選
 漢字が並ばない配字お見事です。「吸へる」あたりで少し渴筆が欲しかったのと、もっと淡くても良かったかもしれません。仮名の線質、表現力の良い方達ですね。

久保田淳子先生選評



白旗芳孩 八段
やや小ぶりの文字で小島切の空気を捉え、料紙の雲母砂子が見える様な心地にさせる。文字に対し、半紙作品として雅印が大

霜鳥卯水 準七
美しい連綿線に魅力あり、リズムよく行の流れも自然で、二行書きの原帖の優雅で微妙なタッチも見えて来る。

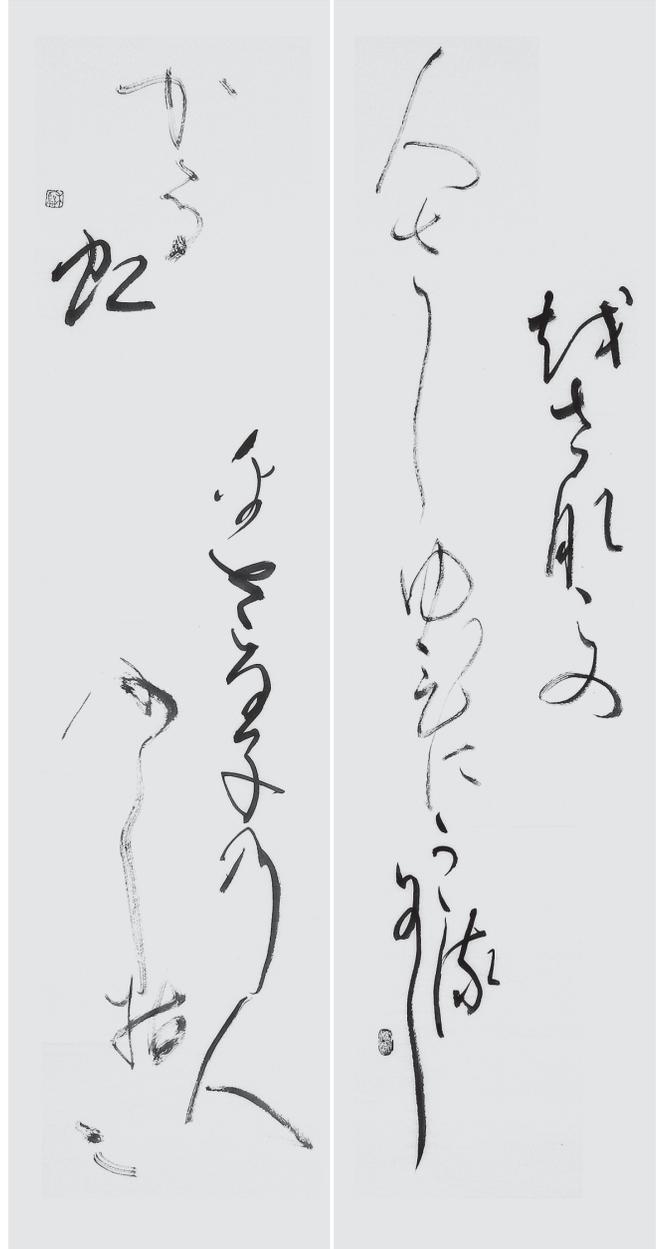
田尻恵美子 五段
書き出しは硬くなりやすいが、しっかりとした滑らかな運筆で、墨量も適切で渴筆が作品のポイントになって居る。最終筆は読みにくい。

石田光子 師範
迷いのない始筆が美しい確かな運筆で進む。紙面全体のバランスよく、行の流れもゆるぎなく、暢びやかな原帖の雰囲気表現して居る。

高橋紫風 師範
一見繊細な線も弾力に富んだ優美さをこめて仕上げられた作。温かな墨色も作者の古筆に對する思いが感じられる。

門田玉美 準師
筆圧のかかった運筆で古筆の凛とした姿が見えて来る。最終筆が少々重く、「る」に添える様に、簡単な様でも大切な一文字になると思う。

吉澤真理先生選評



藤原溪華 推選
字形美しく、引き締まった線が瑞々しく味わい深い。潤渴のバランスも程よく透明感のある作です。遅速の変化を加味すると更に表情豊かになるでしょう。

得田和 推選
呼吸に乗った流麗な線が作品をもり上げて最後まで貫通しています。写真ではわかりにくいですが、渴筆部の筆圧の変化美しく、ちらしの妙で情景が浮かぶ。

葛西玄涛先生選評



梅本燁翠 師範
準七
運筆の遅速の変化によって、多彩な味わいの線がたくさんあり、楽しい気分にしてくれます。鑑賞者に訴える力作として、最高の水準です。

井浦冬扇 師範
筆の特性を生かした美しい渴筆が、紙面に適度に配置されています。無理に筆を操るのではなく、指先から肩までの力を抜いて書かれています。

生野久美 六段
鷗亭先生のお手本にとっても近い字形で書かれています。線の質はしっかりと直線で弾力があり、重量感もあって筆先を巧みに操っています。

金子芳彩 師範
ゆつくりとした筆の運びで、優しい線が生まれた。長い線の情緒ある空気は、品格の高い作品の輝きを増す力になることに貢献しております。

横江星花 六段
とても真面目に書かれています。文字はそれぞれ正面を向いて安定しており、緊張感のある空気すら感じます。そんな中で始筆は優しい。

出村美郷 師範
それぞれの文字に安定感があり、どつしりしています。重厚な線が文字の下部に多いのと、その線が直筆であり、重くても澄んでいるのが佳い。

下内良一 準六
原帖に近い字形です。線の角度、字の中の空間の作り方など、よく研究しています。形に注意深くなると腕の動きが小さくなるが全く感じない。

浜崎葉子 師範
どつしりとした直線を誇張した作品です。腕の動きが安定していて、どのような線でも引けそうです。その証明が「一」の曲線に見られます。

大橋秀子 三段
筆を進める方向を確認しながら丁寧な書き方をしています。特に直線部分は爽快であり、曲線のうねりと対照となり、表現の幅が広い作となりました。

竹内心彩 準師
約八割が重厚な線であり、顔真卿の風に近くて感心します。細線部の軽やかさにも魅力があり、多種の線を表現する技術をしっかり持っている。

石川直字 三段
軽快な線が楽しく明るく、伸びやかに拡がっています。筆先が紙から離れるすこし前に静止して、筆の毛の弾力を生かしているところが良い。

島崎ゆう子 準八
紙面より大きな面での動きを意識して書いている。紙面の中で、より大きく見える作品はともて魅力に溢れたものとなります。高い境地を感じる。